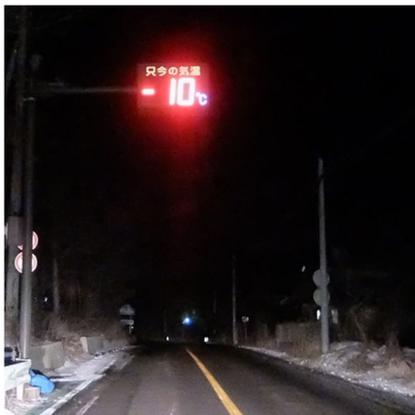


## 「カノープスに挑む(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

カノープスの観測適期は冬である。南中している時に夜の時間帯なのは、12月から2月にかけてで、幸いその時期は、関東地方は晴れた日が多い。難点は、高原では非常に寒いことである。



一回目にカノープスの撮影に挑んだのは、大晦日の晩である。この晩はよく晴れていたが、気温は夜10時の段階ですでに氷点下10°C。かなりキている。

数日前の雪が凍って、路面もカチカチである。私の軽自動車は寒冷地仕様の四輪駆動だが、夜間でもあり、運転は普段以上に慎重にした。冬の夜間は、国道でも動物に遭遇することもあるのだ。

山荘を出て40分後、孺恋村東端の観測地に到着し

た。グーグル・マップのストリート・ビューで確かめておいた通りの景色だ。



安全な路肩の広い場所に車を停めて、さっそく観測を開始した。全天を見回しても、雲は全くない。月も出ていないので、完全な暗夜である。観測対象のカノープスは日付が変わるころ(つまり2017年になる頃)に、真南の地平線にほんのわずかに顔を見せるはずだ。どうやら、まだ昇っていないようだ。

それにしても、こんなに星が美しい土地が、他にあるだろうか? 私は見えている星座をすべて言い当ててながら、カノープスを待った。

(下)「観測地から見た冬の星座」孺恋村仙之入  
浅間隠山の背後の薄明りは、高崎市の街灯りである

